

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02403

研究課題名(和文)江戸期～昭和前期の日露交流史の諸問題に関する実証的研究

研究課題名(英文)The Positive Study on the History of Russo-Japanese Relations from the Edo Period to the First Half of the Showa Period

研究代表者

澤田 和彦 (SAWADA, Kazuhiko)

埼玉大学・人文社会科学部研究科・名誉教授

研究者番号：70162542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は以下のような論点を中心に、計11の論点に沿って進めた。
 1 プチャーチン提督の秘書として1853年に長崎に来航した作家ゴンチャロフの『日本渡航記』にうかがわれる、ロシア人の見た幕末の日本及び日本人観 2 日本最初のプロのロシア語通詞・志賀親朋の生涯と活動 3 市川文吉、黒野義文、二葉亭四迷、川上俊彦など、東京外国語学校魯語科関係者のロシアとの関わり 4 明治期に来日したコレンコ、グレー、ケーベルといったロシア人教師や、B. ピウスツキ、ラッセルのような亡命ロシア人、ポーランド人の日本における事跡と日本観 5 日露戦争 6 1917年のロシア革命後に来日した白系ロシア人の事跡調査

研究成果の学術的意義や社会的意義

2018年に日露2カ国語の編訳書『日本在留のロシア人「極秘」文書』(埼玉大学教養学部・人文社会科学部研究科)を刊行した。これは日本国内とロシア国内の研究機関と研究者に配布され、多大の関心を惹いた。また2019年に『プロニスワフ・ピウスツキ伝』(成文社)を出版した。この人物の全生涯を扱った単著評伝としては世界最初のものである。2020年6月中旬の時点で新聞や雑誌に6本の書評が出ている。
 また2017年にロシア連邦ウリヤーンノフスク市でウリヤーンノフスク州・ロシア作家同盟主催の「I. A. ゴンチャロフ記念国際文学賞」を受賞した。さらに2018年には「日本ロシア文学会大賞」を受賞した。

研究成果の概要(英文)：In "The Positive Study on the History of Russo-Japanese Relations from the Edo Period to the First Half of the Showa Period" I have made researchs on 11 items, such as:
 1 The travel sketch "Frigate Pallas" written by I.A. Goncharov. 2 The first Japanese professional translator from Russian Shiga Chikatomo. 3 Graduating students from the Russian department at Tokyo school of foreign languages, such as Ichikawa Bunkichi, Kurono Yoshibumi, Futabatei Shimei and Kawakami Toshitsune. 4 Russian teachers, such as A. Kolenko, N. Grei and R. Kroeber, and Russian and Polish emigres, such as N. Russel and B. Pilsudski. 5 The Russo-Japanese war. 6 Russian emigres who came to Japan after the Russian revolution in 1917.

研究分野：日露交流史

キーワード：日露交流史 ゴンチャロフ 志賀親朋 二葉亭四迷 ピウスツキ 日露戦争 白系ロシア人 来日ロシア人

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこの31年間に繰り返し科学研究費の補助を得て、日露交流史とロシア文化の研究を進めてきた。そしてその成果の一端として、2007年に単著『白系ロシア人と日本文化』(成文社)、2014年に単著『日露交流都市物語』(成文社)を上梓した。同時に国内外の日露交流史研究者との研究協力、情報と資料の交換を精力的に行ってきた。ロシアではモスクワのロシア科学アカデミー東洋学研究所、世界文学研究所、図書館・フォンド「在外ロシア」、ロシア国立図書館在外ロシア部、サンクト・ペテルブルグのロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所、東洋古籍文献研究所、ペテルブルグ国立大学東洋学部、ウラジオストクのロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所、ロシア極東連邦総合大学、アルセーニエフ博物館、アムール地方研究協会、ユジノ・サハリンスクのサハリン州郷土誌博物館、ポーランドのアダム・ミツケヴィチ大学、ポーランド科学アカデミー・芸術アカデミー、日本美術・工芸マンガ博物館、タトラ博物館、アメリカのスタンフォード大学フーバー研究所とハワイ大学、カナダのトロント大学のロシア極東研究、日露交流史研究、在外ロシア研究の蓄積が、本研究の前提となった。

2. 研究の目的

本研究は、第一にロシアの第三回遣日公式使節 E. V. プチャーチンの長崎来航(1853年)から樺太・千島交換条約(1875年)、日露戦争(1904-1905年)、ロシア革命(1917年)、シベリア出兵(1918-1925年)、日ソ基本条約(1925年)、満州国の成立(1932年)を経て、第二次世界大戦終結(1945年)に至る頃までの日本とロシア、ソ連の交流史上の諸問題に関わる事実を、日本、ロシア及び第三国の図書館や文書館、博物館に所蔵されている関係資料を渉猟することによって、できる限り多く発掘すること、第二にそれを既成の日露・日ソ交流史上に位置づけ、かつなぜそれが従来等閑視されてきたかを考察することを、その目的としている。

3. 研究の方法

本研究は以下に挙げる具体的な論点に沿って、精密な書誌を作成しながら進めていった。

- (1) エヴフィーミー・プチャーチン提督の秘書官として1853年に長崎に来航した作家イワン・ゴンチャロフの『日本渡航記』にうかがわれる、ロシア人の観た幕末の日本及び日本人観
- (2) 日本最初のプロのロシア語通詞・志賀親朋の生涯と活動
- (3) 市川文吉、黒野義文、二葉亭四迷、川上俊彦、嵯峨の屋お室など、東京外国語学校魯語科関係者のロシアとの関わり
- (4) 明治期に来日したアンドレイ・コレンコ、ニコライ・グレー、ラファエル・ケーベルといった東京外国語学校、東京帝国大学、東京音楽学校のロシア人教師や、プロニスワフ・ピウスツキ、ニコライ・ラッセル、ボリス・オルジフのような亡命ロシア人、ポーランド人の日本における事跡と日本観
- (5) 日本の環日本海地域、北海道と、極東ロシア、サハリンとの関わり
- (6) 日露戦争
- (7) 日露交流史に直接もしくは間接に必然的に関わってくる、樺太・千島交換条約と日露戦争の有する文化史的意義
- (8) 北洋漁業と日露関係
- (9) 1917年のロシア革命後に来日した白系ロシア人の事跡調査
- (10) 日本におけるロシア語教育の歴史
- (11) 近・現代日本文学の作品に表れたロシア及びロシア人のイメージ

4. 研究成果

5年間の研究期間に上記(1)については学術論文を3本(うち2本はロシアで発表)、学会発表を3本(うち1本はロシアで開催された国際会議で発表)、研究ノートを1本、書評を1本、新聞にエッセイを1本発表した。(3)については学術論文を1本発表した。また(4)を中心として(5)、(6)、(7)、(8)のテーマも含めて単行本を1冊、学術論文を5本(うち2本はポーランド、1本はロシアで発表)、学会発表を3本(うち1本はポーランドで開催された国際会議で発表)、研究ノートを1本、書評を1本(ロシアで発表)執筆した。(9)については編著書を1冊、学術論文を5本、学会発表を7本(うち1本は日本で開催された国際会議で発表)、研究ノートを2本、事典項目を1本執筆した。

(2)については謝金を用いて長崎県立図書館所蔵の志賀親朋の書簡の翻刻を進めることができた。(9)についても謝金を用いて外務省外交史料館所蔵の来日ロシア人に関する史料のデータベース作りを進めることができた。また(10)、(11)に関して更なる資料の調査と収集を行った。その他、『科研費 NEWS』2016年度 VOL. 2に「最近の研究成果トピックス」を執筆した。

以上のうち本研究にとってとりわけ重要な研究成果は、日露2カ国語の編訳書『埼玉大学教養学部 リベラル・アーツ叢書9 日本在留のロシア人 「極秘」文書』(埼玉大学教養学部・人文

社会科学研究所、2018年）と、『プロニスワフ・ピウスツキ伝― アイヌ王 と呼ばれたポーランド人―』（成文社、2019年）である。前者はウラジオストクで発見された元ソ連 KGB の秘密文書を翻刻、翻訳したもので、日本に在留する白系ロシア人についての日本の外事警察の情報がソ連側に渡っていたことを示すものである。この編訳書は日本国内とロシア国内の研究機関と研究者に配布され、多大の関心を惹いた。また後者はポーランドの民族学者プロニスワフ・ピウスツキの数奇な生涯をたどったもので、この人物の全生涯を扱った単著評伝としては世界最初のものである。2020年6月中旬の時点で新聞や雑誌に6本の書評が出ている。

さらに(1)のテーマに関するこれまでの研究に対して、2017年6月18日にロシア連邦ウリヤーンノフスク市でウリヤーンノフスク州・ロシア作家同盟主催の「I. A. ゴンチャロフ記念国際文学賞」を受賞した。また(1)から(11)までのテーマに関するこれまでの研究全般に対して、2018年10月27日に名古屋外国語大学で開催された日本ロシア文学会の総会で「2018年度日本ロシア文学会大賞」を受賞した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 40
2. 論文標題 プロニスワフ・ピウスツキと函館の漁業家・稲川猛治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 函館日口交流史研究会会報	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 51
2. 論文標題 日本ロシア文学会大賞（2018年度）受賞記念講演 アカデミー版『ゴンチャロフ全集』編集入門譚	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 イワン・ゴンチャロフ（1812 1891） 作家ゴンチャロフの観た幕末日本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ドラマチック・ロシアin Japan 続々・日露異色の群像30 文化・相互理解に尽くした人々	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kazuhiko Sawada	4. 巻 なし
2. 論文標題 Bronislaw Pilsudski w Japonii / Bronislaw Pilsudski in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ajnowie, gorale i Bronislaw Pilsudski / The Ainu, the Gorals and Bronislaw Pilsudski	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 102
2. 論文標題 日本在留のロシア人 「極秘」文書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 、 . . .	4. 巻 2
2. 論文標題 、 . . . XX / . . . :	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 430-433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 第92号
2. 論文標題 プロニスワフ・ピウスツキ資料を求めて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 POLE	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 5 (101)
2. 論文標題 " : . . .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 黒野義文(? 1918) 東京外語露語科からペテルブルグ大学東洋語学部へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ドラマチック・ロシアin Japan 続・日露異色の群像30 文化・相互理解に尽くした人々	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 ミハイル・グリゴリエフ(1899 - 1963) グリゴリエフの生涯と翻訳活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ドラマチック・ロシアin Japan 続・日露異色の群像30 文化・相互理解に尽くした人々	6. 最初と最後の頁 364-380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 なし
2. 論文標題 "	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 VI 205-	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名	4. 巻 1
2. 論文標題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 58-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 ミハイル・グリゴリエフと満鉄のロシア語出版物	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ	6. 最初と最後の頁 226-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田和彦	4. 巻 VOL. 2
2. 論文標題 日露交流史上の新事実を発掘	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科研費NEWS	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 48
2. 論文標題 報告3. ミハイル・グリゴリエフと満鉄のロシア語出版物	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 24
2. 論文標題 早稲田と来日ロシア人	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロシア文化研究	6. 最初と最後の頁 33-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 第52巻第2号
2. 論文標題 プロニスワフ・ピウスツキ関係新発見資料について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要	6. 最初と最後の頁 189-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 47
2. 論文標題 10: ", 2014, 700	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究	6. 最初と最後の頁 270-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 沢田和彦	4. 巻 なし
2. 論文標題 ロシアのラフカディオ・ハーン ミハイル・グリゴリーエフの生涯と翻訳活動	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 平成25～27年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) (課題番号 : 25284060) 研究成果報告書『20世紀前半の在外ロシア文化研究』	6. 最初と最後の頁 69-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiko Sawada	4. 巻 なし
2. 論文標題 Bronislaw Pilsudski and the Osaburo incident	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Thesaurus Gentum & Linguarum: A Festschrift to Honour Professor Alfred F. Majewicz	6. 最初と最後の頁 317-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 ポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキの日本人・中国人との交流
3. 学会等名 ロシア・東欧学会 2019年研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiko Sawada
2. 発表標題 Newly Found Materials on Bronislaw Pilsudski in Polish Archives and Libraries
3. 学会等名 4th International Conference on Bronislaw Pilsudski and His Scholarly Heritage (4IBPC) “Bronislaw Pilsudski: On the Centennial of His Death. Towards an Independent Homeland”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 アカデミー版『ゴンチャロフ全集』編集入門譚
3. 学会等名 日本ロシア文学会総会・研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 「日本の白系ロシア人」：ロシアで発見された新史料
3. 学会等名 科研費基盤研究C「ルースキイ・ミール 文化共生のダイナミクス」研究会「ルースキイ・ミールの多様性」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 「日本の白系ロシア人」：ロシアで発見された「極秘」文書から
3. 学会等名 第126回「20世紀メディア研究会」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名
2. 発表標題 "
3. 学会等名 VI (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 ゴンチャロフの『日本渡航記』について
3. 学会等名 I. A. ゴンチャロフ記念国際文学賞受賞記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 「日本の白系ロシア人」：ロシアで発見された新史料
3. 学会等名 ロシア史研究会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 ミハイル・グリゴリエフの生涯と翻訳活動
3. 学会等名 来日ロシア人研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 明治～昭和前期の来日ロシア人と早稲田大学
3. 学会等名 「早稲田大学ロシア研究所」6月定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 早稲田と木村先生と『オネーギン』
3. 学会等名 木村彰一先生生誕百周年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kazuhiko Sawada
2. 発表標題 Russian Emigres in Japan
3. 学会等名 ICCEES IX World Congress（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 ミハイル・グリゴリエフと満鉄のロシア語出版物
3. 学会等名 日本ロシア文学会第65回定例総会・研究発表会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 澤田和彦
2. 発表標題 プロニスワフ・ピウスツキ関係新発見資料について
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 沢田和彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 成文社	5. 総ページ数 400
3. 書名 プロニスワフ・ピウスツキ伝 アイヌ王 と呼ばれたポーランド人	

1. 著者名 アミール・ヒサムディーノフ、沢田和彦共編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 埼玉大学教養学部・人文社会科学研究所	5. 総ページ数 94+96
3. 書名 埼玉大学教養学部 リベラル・アーツ叢書9 日本在留のロシア人 「極秘」文書	

1. 著者名 沢田和彦、中村喜和、長縄光男、神長英輔、宮崎千穂、醍醐龍馬、松枝佳奈、倉田有佳、中嶋毅、シャルコ・アンナ、ポダルコ・ピョートル、シュラトフ・ヤロスラブ、サヴェリエフ・イゴリ、パールィシェフ・エドワルド、スハーノワ・ナタリア、青木明子、桧山真一、小山内道子、小林実、安井亮平、他9名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 成文社	5. 総ページ数 356 (87-97)
3. 書名 異郷に生きる 来日ロシア人の足跡	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『科研費NEWS』2016年度VOL. 2 (2016年9月)の「最近の研究成果トピックス」の欄に「日露交流史上の新事実を発掘」を執筆した。また2017年7月28日の『埼玉新聞』に「経済コラム 研究者の眼184 160年前の日露交渉」を執筆した。
さらに以下の日本とロシアの新聞とテレビの取材、図書館の企画に協力した。
(1) 犬飼裕一「須田投手の蒼い瞳」『北海道新聞』2015年5月5、6、8～11日
(2) HTB北海道テレビ「プロニスワフ・ピウスツキ」2015年7月1日
(3) 徳山あすか「革命から100年：知られざる亡命者が日本に残してくれたもの」『スポーツニク』日本公式サイト、2017年2月28日
(4) 「世界揺るがした社会主義 ロシア革命100年」『朝日新聞』2017年11月4日
(5) 『朝日新聞』200-、2019 (ゴーリキイ名称沿海州地方公共図書館「船乗り、外交官、教育家、大臣。コンスタンチン・ニコラエヴィチ・ボシエート。200周年に寄せて」ウラジオストク、2019年)

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考